



そろそろ終わりの時刻の近い、11時40分頃、右後方からガーガーという鳴き声に振り向くとカラスの大群が向かってきました。一体どうしたのか?!と見ていると、水資源機構の周りの木に次々と舞い降りました。見ていると、そのうちの何羽かが鷹を追いかけていました。この辺りでカラス200羽以上が集結するというのはとても珍しいです。営巣の季節を迎えているので興奮しやすかったためだと思われます。



ノスリ (真ん中の鳥)

追っていたのはオオタカかと思いきやノスリでした。カラスはノスリには無関心に見えることが多かったのですが…



ソメイヨシノの冬芽



左は1月の冬芽。今日は大分膨らんでいて、冬芽の先がはじけそうです。もう少しで咲きます。



ヒバリの囀り

看板に舞い降りたヒバリです。開けた場所を好み、田んぼではよく見かけます。ここでは子育てには至らないのですが毎年春を感じさせてくれます。



カワウ

繁殖の時期に生える白い羽が目立ちます。よく見ると目は緑色をしています。魚を捕まえるために潜ったとみたのですが、銜えてきたのは巣材にする枝でした。



オオカマキリの卵のう

左側が食いちぎられていません。泡状の壁の中に卵が並んでいるのですが、餌が少なくなくなった鳥に狙われたのです。



イスノキ

赤い紡錘形の中に雄しべや雌しべが入っています。この花には花弁はなく雄しべと雌しべでできています。



ヒラタアブの繭

5 mm くらいの丸いものが枝に付いていました。中は空でした。秋に羽化して成虫で越冬します。

ヒラタアブ2種

ナミホシヒラタアブ



クロヒラタアブ



ヒサカキの雌花

ヒサカキは雄株と雌株に分かれて花を咲かせます。上の雌花の先は開いていて、雌しべが見え、根元から蜜を分泌します。下は雄花で黄色い雄しべの葯が見え独特のにおいがあります。



アシナガサラグモ

秋に孵化して側溝などに小さな巣を張っています。体の割に長い脚です。腹部背面には白黒の斑紋があります。皿のような形の巣を張ります。



キマワリ幼虫

体長は 25mm くらいで、厚ぼったい苔の隙間にいました。朽木を食べてくらすゴミムシダマシの仲間です。幼虫の尾部は下ののように斜めに切り落としたような形です。



アカハラクロコメツキ

体長は 10mm くらいで腹部が赤く見えます。ひっくり返したらびよおーんと跳ねました。



植物 ニホンタンポポ、ヤエムグラなど伸びる、ラップズイセン、フサザキスイセン、ノイバラ新葉、ヒサカキ雌雄、ヤマモモ雄花、膨らむ(ソメイヨシノ、イロハモミジ、イスノキ、アカマツ、ミヤマガマズミ、マメガキ)、コシダ新芽、**昆虫** みの虫(チャミノガ、オオミノガ、コヤガの一種)、ヤママユ卵6個、シヤクガ科不明幼虫、アミガサハゴロモ外来種産卵痕、ムネアカアワフキ巣、シロヘリカメムシ、アカハラクロコメツキ、キマワリ幼虫、クチキムシ、クロヒラタアブ、ナミホシヒラタアブ、ヒラタアブ類羽化殻、クロバエ類、**蜘蛛** ウヅキコモリグモ雌雄、ヤチグモの一種、キハダエビグモ、ネコハグモ、アシナガサラグモ、チュウガタシロカネグモ、ウロコアシナガグモ、アシナガグモ、ジョロウグモ卵のう、ナガコガネグモ卵のう、**鳥、その他** ミサゴ、ノスリ、ハシボソガラス大群、メジロ、コゲラ声、カワウ営巣、オオバン、カンムリカイツブリ夏羽に換羽、ゴホントゲザトウムシ幼体、カナヘビ、不明の虫瘤(コナラの殻斗)、菌類(サネゴケの一種、ツブダイダイゴケ、コフキジリナリア等)、エゾスナゴケ

4/11は休み、次回:4月25日(木) 午前9時30分 水資源機構・P前 雨天中止 参加費100円